



電気を流しやすい物と、流しにくい物があるのはなぜ

導体と不導体のちがい

わたしたちの身のまわりには、電気を流しやすい物と、流しにくい物があります。電気を流しやすい物を導体、流しにくい物を不導体といいます。

電気を流しやすいものは、銅、アルミニウム、鉄などの金属です。電気を流しにくい物には、プラスチック、ゴム、ガラス、布、木などがあります。

電気を流しやすい物は、電気が流れるのをじゃまするはたらきが少なく、電気がらくに流れることができます。しかし、電気を流しにくい物は、まるでかべがあるように、電気が中に入りにくいのです。

導体と不導体の利用

わたしたちの生活では、導体と不導体とが、うまく組み合わせられた品物を多く見かけます。電気コードは、導体と不導体からできています。

細い銅線（導体）を何本もより合わせて、ビニル（不導体）などで包んだ電線を、電気コードといいます。電気がよく流れるように銅線を使い、電気がにげたり、人が感電しないように、ビニルなどで包んであります。

電気工事などをする人は、感電しないように、電気が流れにくい、ゴムの手ぶくろをしたり、ゴムの長ぐつをはいたりしています。（監修・青木 国夫）

